

令和7年度 「運営に関する計画」

学校目標

「立ち向かい、乗り越える力を育成する」
－寄り添い、自尊感情を高める－

大阪市立榎本小学校

令和7年4月

1 学校運営の中期目標

学校目標「立ち向かい、乗り越える力を育成する ～寄り添い、自尊感情を高める～」

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

令和6年度学校アンケートにおいて、肯定的回答が、「学校は楽しい」児童91%・保護者95%、「友だちと仲よくできている」児童97%・保護者98%、「学校や家のきまりや約束をまもっている」児童91%・保護者89%、「学校は子どもの安全確保に努めている」保護者97%であった。

令和6年度全国学力・学習状況調査児童質問紙において、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は82.9%である。

不登校児童の割合は変わらず、改善がみられる児童もいるが、新たに不登校になる児童もいる。

多くの児童が安心・安全に登校できている状況であるが、学級・学年・学校全体で友だちと喜びを味わえる活動や成功体験を積み重ねることを通して児童の自尊感情をより高め、「学校は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を95%にしていく。

様々な教育活動や教職員と児童の信頼関係を構築することで、いじめを許さない意識をより高めていくとともに、いじめについてはアンケートや心の天気を活用し、早期発見・解消に今後も努めていく。解消率については100%に近づける。

不登校児童についても家庭との連携の連続性をより深め、不登校在籍率が1.00を切るようにしていく。

より主体的に行動できる高学年の育成を図りながら、子どもたちの横のつながりと縦のつながりを太くしていくことを意識した教育活動を推進すること、並びに児童一人一人のがんばりを認め、自尊感情を高める取り組みを継続して行いながら、より安心・安全な学校づくりを実現させていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和6年度小学校学力経年調査は、前年度並みの結果であった。しかし、課題もあるため、しっかりと検証し、今年度以降の取組を考えていく。

学校アンケート「授業の内容がわかる(令和5年度92%、令和6年度91%)」「基本的な生活習慣が身に付いている(令和5年度90%、令和6年度89%)」等の校内アンケートでも、高水準を維持しており、学習規律が確立でき、児童の学習意欲も高まってきている。国語科について、令和6年度の4～6年生校内平均正答率(市平均正答率比)は前年度と比較すると4年: -3.0P → -2.6P、5年: -3.7P → +0.1P、6年: -1.0P → ±0Pとなった。授業力向上に向けた研修を重ね、今年度も大阪市平均を上回ることができるようにしていく。

令和7年度小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上(昨年度41%)にする。そのため、主体的・対話的で深い学びの授業、協同的な学びを更に推進できるよう、学校全体での研修を重ねて授業改善を図る。

【学びを支える教育環境の充実】

令和3年度から3～6年生において、学習用端末を授業やコロナ禍での臨時休業中の取り組みに活用してきた。令和4年度以降も授業日における学習用端末の使用機会を増やしてきた。昨年度は、授業での活用とともに、心の天気を日々活用し、児童の見取りの可視化も大切にしてきた。

本校において、教員の長時間勤務は大阪市平均と比較すると下回っている。しかし、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1(基準2)については十分満たしてはいない。ワークライフバランスを考えた働き方が必要とされている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 令和7年度小学校経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ② 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を令和6年度末より増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和7年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。
- ② 令和7年度小学校学力経年調査における「国語の授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を70%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を【令和6年度 82.9%】85%以上にする。
- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を【令和6年度 1.1%】前年度より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を【令和6年度 41%】前年度以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における「国語の授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を【令和6年度 87.2%】前年度以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。【令和6年度 26.6%】
- ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を【令和6年度 71.7%】前年度水準以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

(様式2)

大阪市立榎本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 年度目標 ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を【令和6年度82.9%】85%以上にする。 ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を【令和6年度1.1%】前年度より減少させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 「いじめはどんな理由があってもいけないことである」ことを理解し、一人一人を大切にすることを心がける。 指標 学校アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことである」の最も肯定的な回答を85%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 毎月、不登校児童について共通理解する場を設定し、全教職員で対策を講ずる。 指標 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を【令和6年度1.1%】前年度より減少させる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立榎本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 年度目標 ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を【令和6年度41%】前年度以上にする。 ② 小学校学力経年調査における「国語の授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を【令和6年度87.2%】前年度以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現に向けた授業改善を図る。 指標 小学校学力経年調査における「学級の友達との話し合い活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の最も肯定的な回答を前年度以上にする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 国語科の指導法を工夫し、児童の学力向上に努める。 指標 学校学力経年調査における「国語の授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立榎本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 年度目標 ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。【令和6年度26.6%】 ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を【令和6年度71.7%】前年度水準以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーションの推進）】 デジタルドリルやSkyMenu等を朝学習や学習活動で使用する。	
指標 令和6年度の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「週に2～3回以上」「ほぼ毎日」と答える児童の割合を86%以上（昨年度65%）にする。	
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日の定時退勤、業務分担や業務の精選などの工夫をし、ワークライフバランスの保たれた組織づくりを行う。	
指標 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を72%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	